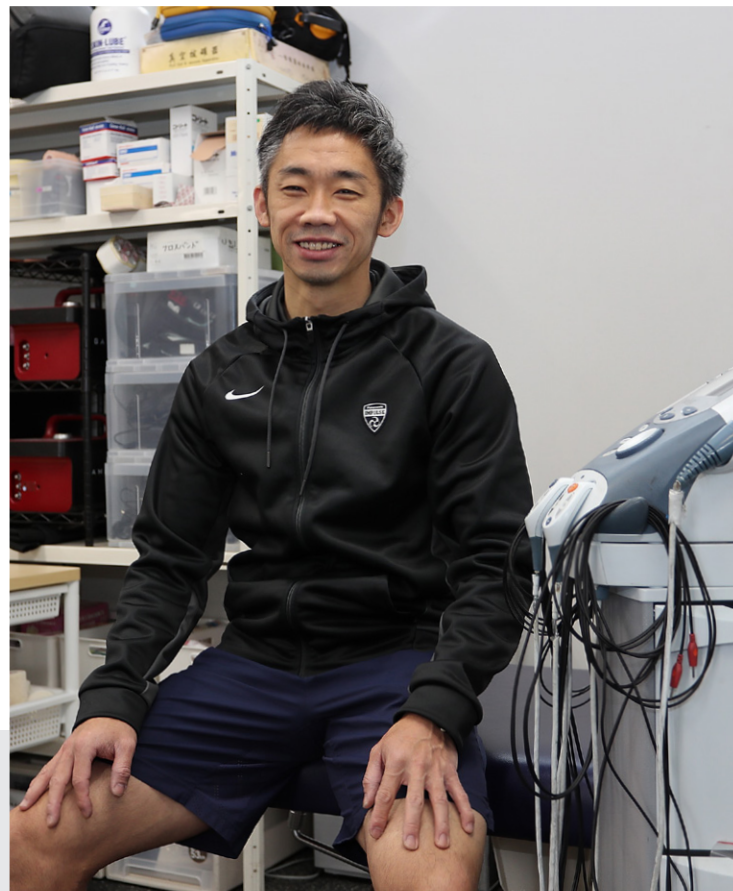


「アスレチックトレーナーを志したきっかけを教えてください。」

倉知 高校卒業後、自衛隊に入隊し、6年間訓練を受けていました。自衛隊では武道やクロスカン トリースキーなど様々な競技に取り組みました。運動能力に優れた人がたくさんいる中で、他の者に負けないようにと自分でトレーニングや体のケアに励んでいるうちに、こういう仕事ができたらいいなという気持ちが生えてきたんです。そこで自衛隊を辞めてスポーツ総合専門学校に入り、アスレチックトレーナーの勉強をしました。

「インパルスに加入するまでの経歴は？」

倉知 専門学校を卒業し、1年間は接骨院で働いていたのですが、スポーツの現場で働きたいと、スタッフを募集していたオービックシーガルズに、自分の経歴と仕事にかける思いをメールで送り、最初はボランティアスタッフとして参加させてもらいました。シーガルズには2009年から2019年2月まで10年間在籍。2009年のノートルダム・ジャパン・ボウル、2014年世界選手権アジア地区予選、2015年の世界選手権米国の日本代表チームにも帯同しました。シーガルズを離れた後はスポットでラグビーチームの合宿の手伝いや試合のサポートをさせていただき、昨年2



倉知 良博 アスレチックトレーナー(AT)

くらち・よしひろ。自衛隊勤務を経て専門学校でATのノウハウを学んだ。2009年から10年間、オービックシーガルズでATとして活動。昨2020年、パナソニックインパルスATに就任。2015年第5回IFAF世界選手権日本代表AT。

Yoshihiro Kurachi

月にインパルスに加入しました。

「クラブチームと実業団の両方を経験し、違いは感じますか？」

倉知 パナソニックとしての特徴は感じます。会社の敷地内にグラウンドやトレーニング施設があるので、仕事が終わってすぐにトレーニングやハビリが出来ますし、トレーニング後の栄養補給などサポートも手厚い。ATとしても、練習日以外でも選手とコンタクトを取りやすいのは大きなメリットです。負傷からの回復度合いは実際の状態をみないと分からないことも多いので、経過を見ながらきめ細かくサポートできるインパルスの環境は選手にとって

ベストとっていいものだと思います。

「仕事とフットボールの両立がインパルスのモットーですが、選手たちの仕事ぶりを見て思うことは？」

倉知 出張が多い部署もあり、遠方から帰ってきてすぐにトレーニングや練習をするのはなかなかハードだと思いますが、皆、一生懸命取り組んでいます。社内にグラウンドがあると同時に、常に応援して下さる社員の皆さんの存在を身近に感じられるというメリットもあると思います。応援してくださっている方々

に中途半端な姿は見せられません。「もっと頑張らねば」というモチベーションを与えているのではないかと思います。

こうした環境が仕事でもフットボールでも「パナソニック」という看板を背負っているんだ、という選手たちのプロフェッショナルなマインドを醸成しているのではないのでしょうか。

「選手をサポートする上で心がけていることは？」

倉知 選手自身の感覚を大切にしてもらっています。

ATから見た客観的な意見を求められることがあります。まずは選手自身がどのように感じて、

どうして行きたいのか？ 何故そうして行きたいのか？ などを話しながら関わることを大切にしています。

また、インパルスの選手は国内メジャー競技のプロ選手のように日中から競技に集中できる時間があるわけではありません。しかし、私は選手たちを「プロフェッショナル」だと思って関わるようにしています。彼らには選手としてだけでなく、ビジネス・パートナーとしての役割もあります。フツ

トボールで怪我をして仕事に支障をきたす状況は避けなければなりません。インパルスの活動を応援していただくためにも、選手としてはもちろん、ビジネス・パートナーとしても活躍できるコンディションを作ることを考え、選手たちをサポートしています。

これは会社のカラーなのかもしませんが、インパルスの選手は論理的に物事を進める傾向が強いように思います。例えば私が提案したエクササイズ一つをとって

も、「なぜやるのか」「これをやることによって、どう変わっていくのか」というところに興味関心がある。とりあえずやってみようというよりは、分からないことを質問し明確にしてから取り組みたいという選手が多いので、きちんとした情報を与えられるように準備しています。

「ATの仕事のどんなところにやりがいを感じていますか？」

倉知 選手が目前のことにチャレンジしている時間を共にできることにやりがいを感じます。

チャレンジといえばトレーニングや練習などのシーンをイメージしやすいと思います。

一般的にATの仕事は怪我の予防や治療過程のリハビリなどメディカルなサポート、選手の能力を伸ばすのはストレングス&コンディショニング(S&C)の分野というイメージだと思います。しかし、選手が健康な状態でなければ、せっかくS&Cコーチがいいトレーニング・メニューを作っても、どこかに歪みが生じてしまい、選手の能力を伸ばすことができないばかりか、怪我のリスクを上げてしまう恐れもあります。つまり、ATの仕事は選手の能力を伸ばす土台作りという側面もあります。



ATがS&Cを兼務しているチームも多いですが、インパルスは分業で行っています。S&Cと

は毎日コミュニケーションをとりながら、きちんと選手のサポートができる環境になっています

「今後、インパルスで実現したいことはありますか？」

倉知 日本一奪取は大前提にありますが、より多くの選手が日本代表に選ばれて世界大会で勝てる状況を実現したいと考えています。日本代表選手として世界と戦い、世界に意識が近づく選手が増えれば、いろんな相乗効果生まれ、より強いインパルスができるのではないかと思います。

また、インパルスは勝つことだけでなく、人材育成を大切にしたいと思っています。



アメリカンフットボールは専門的な役割を持った人々が集まって勝利を目指すスポーツだ。チームが組織として機能し結果を残すためには、それぞれが自らの仕事に誇りと責任を持って取り組むことが不可欠である。社会人Xリーグの強豪・パナソニックインパルスを支える人々は、どんな意欲を持ってチームに携わっているのか。今回は強豪クラブチームを経て昨2020年にインパルスの一員となった、倉知良博アスレチック・トレーナー(AT)に、選手の負傷予防や回復のサポートを担う自らの仕事と、インパルスに対する思い入れを聞いた。

I'm
私
IMPULSE